



## IoT横浜ラボ「都市部でのスマート農業」 市内の農地で2件の実証実験を開始しました

横浜市は「IoT横浜ラボ」の取組として、横浜市内の農地を実証フィールドとして都市農業における農作業の省力化、農作物の栽培支援、営農環境の改善等をもたらす新たな製品・サービスの提案を令和5年1月から2月に募集し、3月に**6件を採択**しました。

この度、横浜市内の農地2か所において、自動走行ロボットとVRを用いた未来農園と、システムを設置した「わな」による鳥獣捕獲状況の遠隔監視の実証実験をそれぞれ開始しました。

このうち、自動走行ロボットとVRを用いた未来農園の取組については、JA横浜の協力をいただいて農地を使用して実施します。JA横浜ではスマート農業やアグリテック分野の技術開発を支援し、生産性と生産品質の向上により横浜農業の価値を高める取組を推進しており、今回の実証実験はその支援の一環としてフィールド提供していただきました。

その他の採択案件については、実施に向けた調整と準備が整い次第、実証実験を開始します。

### 実証実験詳細（企業名 50 音順）

#### 1. 自動走行ロボットとVRを用いた未来農園

企業名	青葉電子株式会社 他1社 (2社共同事業)	
事業名	VR×IoT×AMRの未来農園	
実施概要	<p>不整地走行が可能な <u>AMR（自立走行搬送ロボット）</u> や <u>分光カメラを用いた写真画像、VR（仮想現実）</u> を組み合わせることで、<u>遠隔からの監視や果実の糖度測定、害獣検知と撃退</u>を実現し、<u>農地の見回り負担軽減</u>を目指す実証実験を行います。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">【実証実験イメージ画像】</p>	
実施時期	令和5年8月1日～8月31日	
実施場所	JA横浜 池辺ほ場（横浜市都筑区）	

## 2. 「わな」による鳥獣捕獲状況の遠隔監視

企業名	マクセルフロンティア株式会社	 Within the Future マクセルフロンティア
事業名	IoTによる鳥獣被害対策、不法投棄・盗難対策通知	
実施概要	害獣捕獲監視システム「マタギっ娘 LTE-M版」を用いて、 <b>農業従事者が設置した「わな」の捕獲状況及び農作物盗難の遠隔監視</b> をマグネットセンサの作動によって行うことで、 <b>見回り負担の軽減</b> を目指す実証実験を行います。	
	 	
	【実証実験イメージ画像】	
実施時期	令和5年8月1日～12月20日	
実施場所	個人農地（横浜市栄区）	

※ それぞれの実証実験について取材をご希望の方は、横浜市経済局産業連携推進課 ([ke-sangyorenkei@city.yokohama.jp](mailto:ke-sangyorenkei@city.yokohama.jp)) 「I □ T O P 横浜担当」までご連絡ください。

### I □ T O P 横浜（IoTオープンイノベーション・パートナーズ）とは

横浜経済の強みである「ものづくり・IT 産業の集積」を活かし、IoT 等（IoT、ビッグデータ、AI、ロボット等）を活用したビジネス創出に向けた、交流・連携、プロジェクト推進、人材育成等を包括的に進めていくプラットフォームです。これらの取組から個別プロジェクトを立ち上げ、「新たなビジネスモデル創出」、「中小企業のチャレンジ支援」、「社会課題解決への貢献」を目標としています。



**I □ T O P 横浜**  
IoT Open Innovation Partners YOKOHAMA

I □ T O P 横浜ウェブサイト  
<https://itop.yokohama/>



横浜で初めての万博となる 2027 年国際園芸博覧会の開催に向けて、横浜市では引き続き、IoT 等を活用した新たな製品・ビジネスモデル創出支援や、農業の推進に取り組んでいきます。



#### お問合せ先

【I □ T O P 横浜に関すること】	経済局産業連携推進課課長	岩船 広	Tel 045-671-2574
【実証実験のフィールド（農地）に関すること】	環境創造局農業振興課長	田並 静	Tel 045-671-2606
【JA 横浜のスマート農業施策に関すること】	横浜農業協同組合経営企画本部事業企画室ゼネラルマネジャー	角田 茂樹	Tel 045-414-0008

※ 本件は、横浜経済記者クラブにも同時発表しています。